御金明神（おかねみょうじん）

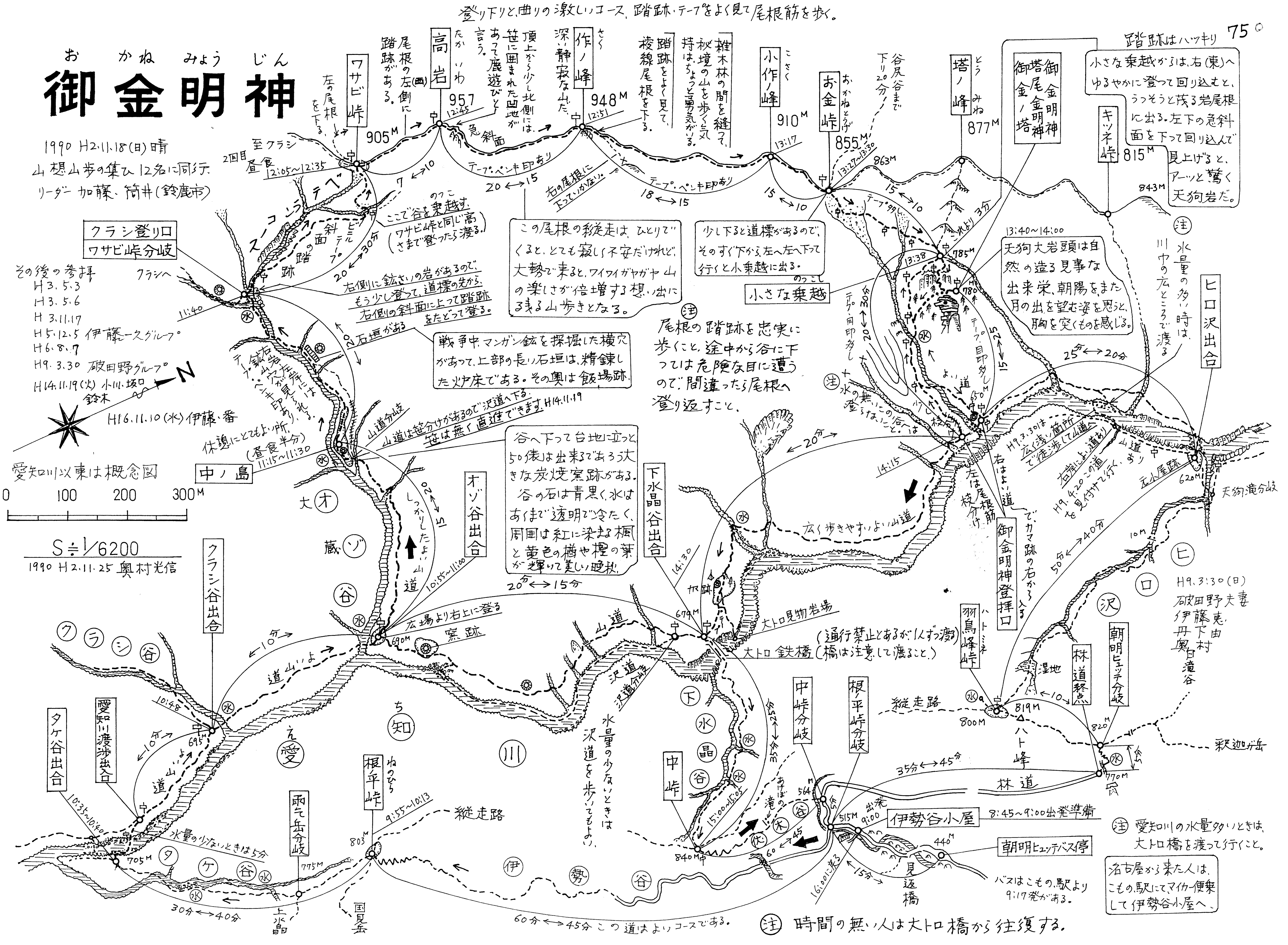
登り下りと、曲りの激しいコース、踏跡・テープをよく見て尾根筋を歩く。

1990 H2.11.18(日) 晴
山想山歩の集ひ 12名に同行
リーダー 加藤、筒井(鈴鹿市)

その後の参拝
H3.5.3
H3.5.6
H3.11.17
H5.12.5 伊藤一久グループ
H6.8.7
H9.3.30 破田野グループ
H14.11.19(火) 小川・坂口 鈴木
H16.11.10(水) 伊藤・番

愛知川以東は概念図

S≒1/6200
1990 H2.11.25 奥村光信


ワサビ峠
左の尾根を下る。
905M
高岩（たかいわ）
957
12:45
急斜面
作ノ峰（さく）
948M
12:51
小作ノ峰（こさく）
910M
13:17
お金峠（おかねとうげ）
855M
13:27~13:30
谷尻谷まで下り20分
863M
塔ノ峰（とうみね）
877M
御金明神
塔尾金明神
御金ノ塔
キツネ峠
815M
843M
踏跡はハッキリ
至クラシ
2回目 昼食 12:05~12:35
テープ・ペンキ印あり
20↔15
右の尾根に下っていかない。
18↔15
15↔10
7↔10
テープ
スーコンラテペ
ここで谷を乗越す（のっこす）
斜面
ビニルテープ
踏跡
20↔30分
クラシ登り口
ワサビ峠分岐
クラシへ
11:40
石垣がある
20
テープ・ペンキ印あり
鉱石の岩穴が左岸には見られる。
山道分岐
休憩にとてもよい所
(昼食半分)
11:15~11:30
中ノ島
大
オ
蔵
ゾ
谷
20↔15
しっかりしたよい山道
オゾ谷出合
10:55~11:00
広場より右上に登る
690M
窯跡
20分↔15分
0 100 200 300M
N
クラシ谷出合
クラシ谷
←10分→
よい山道
10:48
695M
愛知川渡渉出合
タケ谷出合
10:35~10:40
水量の少ないときは5分
705M
タケ谷
30分↔40分
上水晶
雨乞岳分岐
775M
根平峠（ねのひら）
803M
9:55~10:13
縦走路
国見岳
愛知川（え ち）
伊勢谷
60分↔45分 この道はよいコースである。
山道
沢道
沢道分岐
水量の少ないときは沢道を歩いてもよい。
下水晶谷
35分↔25分
中峠
15:00~15:05
下水晶谷出合
14:30
679M
加跡
大トロ見物岩場
大トロ 鉄橋
(通行禁止とあるが、1人ずつ渡る)
(橋は注意して渡ること。)
←20分→
14:15
広く歩きやすいよい山道
小さな乗越（のっこし）
13:38
785M
これより3分
780M
13:40~14:00
テープ多し
テープ、目印多し
20↔30分
15↔25
よい道
650M
少し枝分かれ
水の無いこの谷へは登らないこと。
左は尾根筋 枝分け
右はよい道
でカマ跡の右から入る
御金明神登拝口
25分↔20分
H9.3.30は広く浅い箇所で徒渉して山道へ
右岸によい道あり
H9.4.20この道を見付けて行く。
山道
元小屋跡
620M
天狗滝分岐
ヒロ沢出合
水量の多い時は、川中の広いところで渡る
50分↔40分
10M
ヒロ沢
H9.3.30(日)
破田野夫妻
伊藤恵
丹下由
奥村
白滝谷
羽鳥峰峠（ハトミネ）
湿地
←10→
林道終点
朝明ヒュッテ分岐
800M
819M
ハト峰
820M
釈迦ケ岳
5分
770M
35分↔45分
林道
中峠分岐
根ノ平峠分岐
840M
あけぼの滝
伏木谷
564M
5分
60↔45
515M
出発 9:00
16:00に戻る
伊勢谷小屋
8:45~9:00出発準備
440M
朝明ヒュッテバス停
←15分→
見返橋
バスはこもの駅より9:17発がある。

踏跡をよく見て、稜線尾根を下る。

尾根の左(西)側に踏跡がある。

頂上から少し北側には、笹に囲まれた凹地があって鹿遊びと言う。

深い静寂な山だ。

雑木林の間を縫って、秘境の山を歩く気持はちょっと勇気がいる。

小さな乗越からは、右(東)へゆるやかに登って回り込むと、うっそうと茂る岩尾根に出る。左下の急斜面を下って回り込んで見上げると、アーッと驚く天狗岩だ。

(ワサビ峠と同じ高さまで登ったら渡る。)

右側に鉱さいの岩があるので、もう少し登って、道標の先から、右側の斜面に上って踏跡をたどって登る。

この尾根の縦走は、ひとりでくると、とても寂しく不安だけれど、大勢で来ると、ワイワイガヤガヤ 山の楽しさが倍増する想い出に残る山歩きとなる。

少し下ると道標があるので、そのすぐ下から、左へ左へ下って行くと小乗越に出る。

天狗大岩頭は自然の造る見事な出来栄、朝陽をまた月の出を望む姿を思うと、胸を突くものを感じる。

㊟ 尾根の踏跡を忠実に歩くこと、途中から谷に下っては危険な目に遭うので、間違ったら尾根へ登り返すこと。

戦争中、マンガン鉱を採掘した横穴があって、上部の長い石垣は、精錬した炉床である。その奥は飯場跡。

山道は笹分けがあるので沢道へ下る。笹は無く直進できます。H14.11.19

谷へ下って台地に立つと、50俵は出来るであろう大きな炭焼窯跡がある。谷の石は青黒く、水はあくまで透明で冷たく、周囲は紅に染まる楓と黄色の楢や樫の葉が輝いて美しい晩秋。

㊟ 愛知川の水量多いときは、大トロ橋を渡って行くこと。

名古屋から来た人は、こもの駅にてマイカー便乗して伊勢谷小屋へ。

㊟ 時間の無い人は大トロ橋から往復する。